

# Review — 2014.4.16 モスクワ公演 —

馬頭琴、ヤタガ、チャンザ等の民族楽器と、「シベリアのビョーク」とも呼ばれる透明感のある歌声が、西洋クラシック音楽の父J.S.バッハの音楽、切り絵や影絵のように生き生きと動くイラスト画、琵琶の音色、そしてその全てを一枚の荘厳な絵巻物に編みこんでいく語り部とともに、日本の古典『平家物語』を華麗に、そして神秘的に描き出す。

「これまでにはない、まったく新しい形態の芸術の誕生を観た。朗読、イラスト画、民族音楽、そしてJ.S.バッハの旋律、この4つの要素がひとつになって、驚くほど調和のとれた、印象深いアンサンブルを作り出している。」

ラジオ「ロシアの声」(«THE VOICE OF RUSSIA») L.サーキャン記者

## プロフィール

### ピアノ：宮崎朋菜

香川県、高松市生まれ。2000年東京芸術大学音楽部器楽科卒業。2003年チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院の大学院を優等で修了(ドレンスキー教授門下)。2004年国際ピアノコンクール1位(リトアニア)。1996年から今日にいたるまで、日本国内、ロシア、CIS諸国、ヨーロッパ、米国、メキシコ等で数々のピアノソロおよび室内楽のリサイタル、ロシアの名門オーケストラ国立モスクワ交響楽団(パーヴェル・コーラン指揮)をはじめオーケストラとの共演も多数行う。2012年にはサードアルバム“Dance+a”をリリース。近年はエスニックフュージョンのミュージシャン達とのセッションなど、世界をまたに意欲的な活動を展開。2004年よりロシア音楽財団に所属、今日に至る。  
<http://tomona.jp>



### イラスト：木内信夫

美術工芸手・漫画家。大正12年(1923年)、東京赤坂に生まれ育つ。暗い時代にあっても優しさや人間としての尊厳を失わず、日々の生活をまっとうする人々の姿を温かく描くその画風は国内外から高い評価を得る。その活動範囲はイラストのみに留まらず幅広く、劇団四季の歴史三部作『異国の丘』においては舞台衣装の時代考証を担当する。旧ソ連での自らの抑留生活を描いた水彩画106点を、ユネスコ「世界記憶遺産」登録を目指す舞鶴引揚記念館が所蔵。現在、地元千葉県柏市の地元紙に連載する傍ら、柏プラネタリウムのための投影イラストの制作、学校講演、各種講演会の開催など積極的な活動を続けている。  
<http://kiuchi.jp.org>



### 語り：小牧まり

東京都出身。東京芸大声楽科卒。1974年より、NHK教育テレビ「なかよしリズム」に「まりおねえさん」としてレギュラー出演。同時にキングレコード会社に専属となり、母と子のための歌にも意欲的に取り組む。LP「中田喜直四季の抒情」CD「中田喜直抒情名曲集」他、童謡を中心にレコーディングした曲は、100曲を上回っており、その情感溢れる澄んだ歌声は、数多くのファンを魅了してきた。1997年からは、女優としてコマーシャルやドラマなどでテレビ出演も行い、積極的な芸能活動を再開。2010年、サンフランシスコ市で「遣米使節団サンフランシスコ入港150周年記念」公式イベントとして本公演の前身である『21世紀・新平家物語』公演が行われた際、「語り部」役を演じ大好評を博す。



### 琵琶：久保田晶子

2000年より坂田美子に師事。2003年以降、各地で演奏活動を開始。平家物語や軍記物等の古典曲や、民話を原作とした現代語での新作曲の自作自演など、琵琶ならではの「語り」表現を求め国内外で活動している。また同時に西洋の古楽器や和楽器とのアンサンブル演奏も盛んに行い、本来は独奏楽器である琵琶において新しい表現に挑戦。(琵琶二人語り、人形芝居とのコラボレーション、多数の和楽器や古楽器とのオーケストラ等。)古典から現代にいたるまでの演奏活動を展開している。2011年には小椋桂コンサート出演。2013年は日本音楽集団一員としてウィーンフィル管弦楽団と共演。インドネシア、ブラジルなど国外でも演奏。アニメ音楽やゲーム音楽の録音参加、舞台音楽創作・演奏も多数。師・坂田美子とともに鹿児島における琵琶の普及活動にも力を入れている。「谷中琵琶Style」「KIKIふおれすと」主催メンバー。「日本音楽集団」運営委員。「和楽団煌」団員。「アンサンブル室町」参加。  
<http://kubota-biwa-blog.cocolog-nifty.com>



### 『ナムガル』

モンゴルと国境を接するシベリア南端の地、ロシア・ブリヤート共和国を代表するワールドミュージックのグループ『ナムガル』。「リードボーカル」と「ヤタガ」を担当するのは「シベリアのビョーク」という異名を持つナムガル(「ナムガル」とはチベット語で「白い雲」の意味を持つ名前)。父の代から遊牧民であるブリヤート族に古来から伝わる歌や踊りを再現。(ナムガルの父・アヨーシャ・ルハサラノフ氏もまた有名な伝承歌手で、坂本美雨が案内役を務める「シベリア鉄道 音紀行〜坂本美雨・ロシアの音を求めて9000キロ〜」(BS-TBS)の中でも取り上げられた)。また、バイカル湖を中心に、自然神を崇めるシャーマンの歌を再発掘、新たな躍動感を加えて表現。大好評を博す。ロシアの名門グネーシン記念音楽アカデミーのジャズ・現代音楽科を卒業(モスクワ市)。ロシア国内は勿論のこと、ノルウェー、フランス、オランダ、デンマーク、ドイツ、カナダ、アメリカやマレーシアなどで一世を風靡する。世界的に名高いワールドミュージック音楽フェスティバル「リドゥー・リドゥー」ではカ

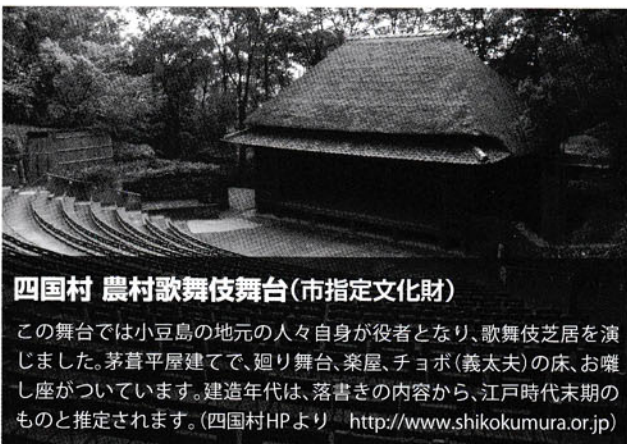


ナダのジェリー・アルフレッドや、ノルウェーのマリ・ボイネといったワールドミュージックの大御所達と共演。2014年ソチ市で開催された冬季オリンピックでは、ブリヤート共和国の代表ミュージシャンとしてオリンピック公式イベントに参加。ブリヤート共和国功労芸術家、アガ・ブリヤート自治管区功労文化人、ロシア=ノルウェー文化財団「北方の世界」のアートディレクターを務める。「チャンザ」はベースギタリストから、蛇の皮を張った三弦楽器のチャンザ弾きに転身したチャンザの名手エフゲニー・ゾロタリョーフが、そして、「馬頭琴」は数々のコンクールで審査員も務めるブリヤート共和国の首都ウラン・ウデ市チャイコフスキー記念音楽大学民族音楽器楽科で教鞭をとるガルサン・オショーロフが担当。  
<http://namgarfolk.com>



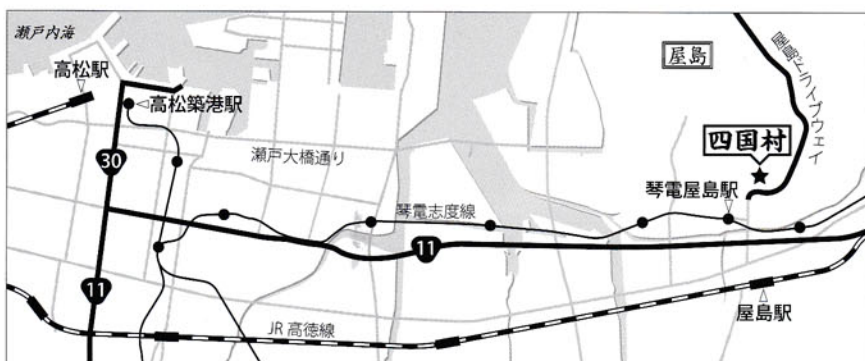
## 会場のご案内

※当公演は雨天でも公演を開催いたします。雨天時にはテントなどの用意はいたしますが、各自でもレインコート等の雨具をご用意いただけますようお願いいたします



### 四国村 農村歌舞伎舞台(市指定文化財)

この舞台では小豆島の地元の人々自身が役者となり、歌舞伎芝居を演じました。茅葺平屋建てで、廻り舞台、楽屋、チョボ(義太夫)の床、お囃し座がついています。建造年代は、落書きの内容から、江戸時代末期のものだと推定されます。(四国村HPより <http://www.shikokumura.or.jp>)



- JR高徳線 屋島駅下車 徒歩10分
- 琴平電鉄志度線 琴電屋島駅下車 徒歩5分
- ※駐車施設 無料駐車場 バス5台・普通乗用車200台